

うた ひつじの詩だより

2010.5.1
毎月発行 No.110
この頃はご主人の品と
いっしょにお届けします

暖かい日と寒い日が交互に訪れて、まるでジェットコースターに乗せられているような春のお天気でした。天気予報によれば、5月の天気は安定するとのこと。からりとした晴天続きが待ち遠しいですね。



先月、石井桃子・回顧展（世田谷文学館にて）に行ってきました。活字離れという言葉をよく耳にしますが、それってどこの話？と思うくらい、たくさんの来館者で賑わっていました。

1933年のクリスマス・イブに犬養邸の居間で、「くまのプーさん」の原書を石井桃子さんが手に取り、子供たちにせがまれるままに訳して聞かせて、大喜びの大騒ぎになったという話はどこかで読んだことがありました。小さい弟さんは、笑いすぎてストーブの方へ何度も転がっていくので大変でした、という楽しい情景です。けれども、私の子供の頃、隣に住んでいた姉弟の愛読書だった「ドリトル先生」シリーズも、実は石井さんが丁寧に訳したものに、井伏鱒二氏が加筆したのだということは初めて知って驚きました。

その他にも、「ノンちゃん雲に乗る」など多くの創作がある一方で、「ピーターラビット」や「うさこちゃん」のシリーズ、「ちいさいおうち」、「こねこのぴっち」、エリナー・ファージョン全集などなど・・・みんな石井さんの翻訳だったのです。私も弟も友達も、うちの子どもたちも、石井さんのお仕事にどれほどお世話になっていたことか、改めて認識しました。私よりもっと前の世代の人たちから現在の子どもたちまで、日本の子どもはみんな、石井桃子さんの言葉に育てられてきたと言っても、決して大げさではないと思います。

後日手にした随筆集の中で、石井さんはご自身の幼い頃の読書体験を、「本を読みふける無我夢中の楽しみ」と表しておられます。私もその楽しみを、子供の頃から自分のものとするのができたことは幸せなことだと、感謝を込めて考えています。佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎からのお知らせ

これまでスウェーデンひつじの詩舎の直営店 スペース「ペレのあたらしいふく」は毎週木曜日～土曜日（祝日除く）を営業日としておりましたが、2010年6月1日より下記の通り営業日を変更させていただきます。お越しの際は間違いないようにお気をつけください。

営業日： 毎月第1・第2週の月曜日～土曜日（祝日除く） 10:00～16:30
2010年6月の営業日： 1,2,3,4,5, 7,8,9,10,11,12日

また、スウェーデンひつじの詩舎の通信販売の商品発送は、月曜日～金曜日のみとさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

巡回展 「ウォルドルフ人形の四季」 -2009、スウェーデン大使館作品展より-

5月2日(日)～3日(月) ぱふ宇治店 宇治市宇治妙楽 31 TEL:0774-24-4321

★5月3日(月)「ぼあぼあマリア」作りのワークショップを行います。

担当：中野久仁子

6月20日(日)～22日(火) アトリオン 秋田市中通 2-3-8 TEL:018-836-7801

担当：生守恵利子

その他の作品展

5月1日(土)～28日(金)

担当：足立美和子

「ウォルドルフ人形と小さな仲間たち ピケアプンゲンス・ホプシー(森の宝)の樹のもとで」
東はりまフォルクスガーデン黒田庄 西脇市黒田庄喜多 1518-1 TEL:0795-28-5120

6月1日(火)～9日(水) 「ウォルドルフ人形作品展 ウォルドルフ人形の世界から」

小野エクラギャラリー 小野市中島町72 TEL:0794-62-5080 担当：足立美和子

連載 シュタイナー学園の『手の仕事』 — その5 手の仕事専科教師 友岡礼子

前回に続き次は7・8年生の手の仕事を紹介しましょう。この時期の子どもたちは骨の成長期で、周りも目を見張るくらいの身体的な変化が見られます。しかし、その外側の姿と内面的な成長との差は必ずしも一致するものではありません。ぎこちなくしっくりいかない様子は思春期の特徴です。このような時、手仕事では靴を作ります。敢えて頭部より足元へ注目し、冷静に細かい作業に取り組みます。一歩前へ踏み出して歩くことは“意志”と関係があり、靴は歩くことの意味を考えさせることもできます。当学園ではモカシンシューズを作りますが、最初は足の裏を絵の具で紙に写し取り、それをみんなで純粋に観者として見合います。大きい・小さいだけではなく、「走るのが速そう」「優しそう」「力が強そう」「あくどい感じ」「すぐ諦めそう」「堂々としている」など、足の裏に対して様々な面白い言葉が出てきます。



そしてその足に合わせて型を選び、革を裁断して皮紐で綴じ合わせていきます。革包丁や目打ちでの仕事は、規律に則った正確さや決断力が求められます。

8年生はエポック授業で産業革命の時代を学び、手の仕事ではミシンを使います。足踏みミシンは、子どもたちに、手と足と頭を駆使する今までとは異なる高度な要求をします。ミシンは回転しているのに上下に動く、上下に動くことによって前後へ進むといった運動の素朴な原理に気がつく子もおり、そうすると導



入作業にも勢いがつきます。特に男子生徒は機械自体に興味を持ち、ミシンは運動の伝達や限定運動の機構を知る身近なものとなります。シュタイナー教育では8年生で学びの区切りがあり、1年生から共に過ごした担任とも別れます。そのため学業の集積の一つに“8年劇”が設けられており、手の仕事の授業では簡単な衣服の成り立ちを学んだ後、学年に見合った力で劇の衣裳制作に参加します。

思春期の子どもたちに接する教師には、子どもたちが仕事の専門性に対して尊敬の念を抱き、仕事を通して内面的な成長が得られるよう、教師自身の力を磨くことが必要とされます。また子どもたちへ示す時には、厳しさや道徳的なことではなくユーモアをもって接し、しっかりとした理解をさせることが大切です。

(写真：7年生 室内履き、8年生 衣服)

編集担当 佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ

<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

♥スウェーデンひつじの詩舎♥

スペース ペレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2

TEL&FAX 045-881-6900,6665

佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708

相談窓口(金) 担当：寺田裕子 045-881-7035